

公益財団法人 8020 推進財団

平成30年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：口腔乾燥の原因に関する調査事業

2. 申請者名：公益社団法人 岐阜県歯科医師会 代表者氏名：会長 阿部義和

3. 実施組織：公益社団法人 岐阜県歯科医師会

4. 事業の概要：

口腔乾燥には糖尿病やシェーグレン症候群、腎障害などの疾患により起きるものがある一方で、疾患の治療として飲まれている薬剤が影響することも報告されている。特に、多種類の医薬品を服用している多剤併用の場合、口渇に関わる薬剤が含まれる可能性が高くなり、口腔乾燥が出現しやすくなる。多剤併用は英語でポリファーマシー (Polypharmacy) と言われている状況であるが、平成30年5月に厚生労働省が示した、高齢者の医薬品適正使用の指針(総論編)では、ポリファーマシーは、単に服用する薬剤数が多いことではなく、それに関連して薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアランス(患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って自ら行動して治療を受けること)低下等の問題につながる状態と述べている。

今回、ポリファーマシーとして薬物有害事象が再び注意喚起されるなか、口腔乾燥が口腔の機能およびQoLの低下に影響していることが示されたことから、今後の口腔機能の評価や口腔機能低下者への保健指導および医歯薬連携の推進に役立てることを目的として本調査を行った。

5. 事業の内容：

1. 対象者

調査協力歯科医院として岐阜県内の10歯科医院を選択し、それらの歯科医院へ「ぎふ・さわやか口腔健診」を受診するために訪れた者を対象者とした。初診もしくは再初の者を対象とし、層化抽出法を用いて年齢および性別が均等になるようにサンプリングを行った。年齢は75歳から79歳、80歳以上の2段階及び、性別で層化した。調査期間は平成31年1月から平成31年2月末までであった。

2. 調査項目

以下の項目について調査を行った。

- ①医療圏 ②年齢 ③性別 ④保有歯数
- ⑤Q1 (半年前に比べて硬いものが食べにくくなりましたか)
- ⑥Q2 (お茶や汁物でむせることがありますか)
- ⑦Q3 (口の渇きが気になりますか)
- ⑧現在治療中の疾患があるかの問診
- ⑨安静時唾液 (視診)
- ⑩反復唾液嚥下テスト (RSST: Repetitive Saliva Swallowing Test) (嚥下機能)
- ⑪刺激時唾液：サクソンテスト (Saxon test) (口腔乾燥状態)
- ⑫義歯の使用状況
- ⑬咀嚼力判定ガムテスト (咀嚼能力)
- ⑭服薬情報 (お薬手帳・薬剤情報提供書等)

6. 実施後の評価 (今後の課題)：

自覚的口腔機能である半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか、お茶や汁物等でむせることがありますか、口の渇きが気になりますか、の3項目のいずれかを自覚している状態を自覚的口腔機能に問題があるとした。そして、ある投薬成分数未満の人に対する、ある投薬種類数以上投薬されている人が自覚的口腔機能に問題があるオッズ比を求めた。その結果、8種類以上の成分を投薬されている者は7種類以下の者に比べ、自覚的口腔機能に問題があると回答していた(2.9:1.3-6.2)。

客観的口腔機能である安静時唾液(視診)、反復唾液嚥下テスト(RSST)、サクソンテスト、咀嚼力判定ガムテストの4項目のいずれかに基準値を下回る状態を客観的口腔機能に問題があるとした。そして、ある投薬成分数未満の人に対する、ある投薬種類数以上投薬されている人が自覚的口腔機能に問題があるオッズ比を求めた。その結果、8種類以上の成分を投薬されている者は7種類以下の者に比べ、客観的口腔機能に問題が見られた(4.3:1.6-11.6)。